

# IAUD会報における ユニヴァーサルデザイン の取組み

発表者：三菱電機(株) 酒寄映子

1

「IAUD会報におけるユニヴァーサルデザインの取組み」について発表いたします。

発表は、広報グループの酒寄が行います。

# IAUD会報でのUDの取組み

1. 印刷物でのUDの現状
2. IAUD会報での取組み
  - 1 経緯
  - 2 IAUD会報について
  - 3 IAUD会報UDガイドライン
3. まとめ・今後の課題



発表の内容は大きく分けて3つあります。

1. 印刷物でのUDの現状について、
2. IAUD会報での取組みとして、
  - ・ 経緯、
  - ・ 会報について（コンセプトなど）、
  - ・ IAUD会報UDガイドラインの概要、
3. 最後にまとめ・今後の課題、

という順に進めてまいります。

## 広報グループ

**担当理事** 菅原道郎（乃村工藝社） 藤木武史（コクヨファニチャー）

**主査** 酒寄映子（三菱電機）

**メンバー**（創刊準備号からの参加メンバー \*印は編集長）

\*木幡明彦、中島秀男、児島正剛（乃村工藝社）

\*古田晴子（大日本印刷）

\*奥沢喜由（三菱電機ドキュメンテクス）

渡辺慶子（小川印刷）

田中 明（サントリー）

東松道明（ソニー）

高田知之（東洋インキ製造）

大塚吉雄、荻野 淳（凸版印刷）

加藤正義（富士通）

新山博子（マジカルピーンズ）

藤川宏美（六耀社）

広報グループの紹介です。

「広報」という名前ですが、実際にはIAUDの広報・宣伝活動一般と協議会内部の情報共有・コミュニケーションに関わることを担当しており、会報もその一つです。

この名簿は、発足からこれまでに広報に席を置いた方、全員の方です。会報は発足当初から企画を練ってきましたが、創刊準備号から関わった方が、今は他の方に交替されたりしております。

今回、会報のUDガイドラインを発表するに当たり、活動の一つの区切りになると考え、17名のお名前を列記しました。

現在、活動しているメンバーは、10名ほどです。

# 1. 印刷物でのUDの現状

- ・ 小さな字や薄い字が読みづらい印刷物が多いなあ。
- ・ 文字ばかりだと情報量は増えるけれど、何から読んだらよいか、わかりづらいなあ。
- ・ 「ビジュアル優先」というが、読み手ではなく、クライアントの好みなのは？
- ・ 文字が大きいのは、カッコ悪い？
- ・ もっと写真や図解が多いと良いのに。



IAUDの会報はUDにしたい！

3

1. 印刷物でのユニヴァーサルデザインの現状について、です。

「会報のような印刷物」は、日常的に触れることが多いと思うのですが、以下のようなことを感じているのではないのでしょうか。

- ・ 小さな字や薄い字が読みづらいなあ。
- ・ 文字ばかりだと情報は多いけれど、何から読んだらよいか、わかりづらいなあ。
- ・ 見た目の美しさ：ビジュアル優先、というが、読み手ではなく、クライアントの好みなんでは？

私たちは、IAUDの会報を、他にないほどのユニヴァーサルデザインにしたい！と強く考えて、取り組みました。

この右の画像は会報創刊準備号の表紙です。限られた制作期間で、メンバーも素人ばかり、まだ会報のUDについてのイメージが曖昧でした。編集者やデザイナーとのやり取りの中で、UDにするには何をどう要求したらよいか、見出せず苦労しました。

## 2. IAUD会報での取組み



### 2-1 経緯

#### ■創刊号企画時

小川印刷の独自のUDガイドライン(和文用)の提供  
→IAUD広報で議論し、「UD団体の会報」、「和英併記」等の  
条件の下、基本設計を実施

#### ■会報への適用

創刊号(05.2月発行)、  
2号(05.8月)、3号(06.2月)

#### ■今回の研究発表

チェック項目を加えた  
「IAUD会報UDガイドライン」



**会報のUDはどこまでできるか？**

4

## 2. IAUD会報での取組み

経緯の続きになりますが、

2004年度 4月からはメンバーも増え、中に印刷関係の方も多くいました。いよいよ会報を創刊しようと夏から企画に着手した時に、小川印刷さまが独自に作られていたUDガイドラインの中から、会報に近い性格の印刷物用のものをご提供いただきました。

そこには、チェックポイントや数値目標などが示されており、早速、これを元に、広報のメンバーで、IAUD会報用に検討を進めました。UD団体の会報である、和英併記などの条件の下、基本設計を実施、

創刊号、2号、今日お手元にお配りしている3号と適用して、その都度、見直してきています。

今回の研究発表は、チェック項目を整理しなおし、今後に繋げることを目的に実施します。

まとめますと、会報のユニバーサルデザイン、どこまでできるか?! ということになります。

## 2. IAUD会報での取組み

### 2-2 IAUD会報について



#### ■IAUDの会報のコンセプト

「IAUDの活動と専門知識を蓄積・共有する  
紙媒体」

#### ■役割

- ・ 内部の基盤固め
- ・ 方針や活動内容が見える【春夏号】
- ・ 価値ある知識情報を提供する【秋冬号】



IAUD会報ならではのUDの取組み

5

次に、2の2 IAUD会報について 説明します。

会報のコンセプトは「IAUDの活動内容とユニヴァーサルデザインの専門知識を蓄積し、共有するための紙媒体」です。Webサイトやメールマガジン、研究会や交流会との役割分担を考えています。

役割は、現在はまだ発足して間もないため、「内部の基盤固め」を主に考えており、当面は年に2回発行していくことにしております。

「方針や活動内容が見える【春夏号】」と

「価値ある知識情報を提供する【秋冬号】」です。

このような位置づけの会報ですから、UD開発のコンセプトは、「IAUD会報ならではのユニバーサルデザインの取組み」をしていこうということになります。

## 2. IAUD会報での取組み

### 2-2 IAUD会報について

#### ■UD開発のコンセプト

「IAUD会報ならではのUDを目指す」

#### ■UD設計 ←特徴: 予めUD指標と基本設計を実施

- ・ 和英併記でも読みやすいレイアウト
- ・ 読みやすい文字の大きさ、フォント
- ・ コントラスト・余白率・図版率を最適化
- ・ わかりやすさを総合的にチェック

#### ■デザイン

- ・ 読者の興味をかきたてるレイアウトデザイン
- ・ 快活とした雰囲気表現
- ・ 視覚的なわかりやすさを促すパターンを工夫

6

UD開発コンセプトに続き、UD設計についてまとめます。

今回の取組みの特徴として、予めUD指標と基本設計を実施して、制作を進めたということがあります。通常制作では、文章が増えて文字を小さくするとか、見開きに設計したはずが違ってしまふというようなことは起こりがちですが、IAUD会報では、基本設計をできるだけ守って進行しています。

UD設計のポイントは以下4項目です。

1. 和英併記でも読みやすいレイアウト
  2. 読みやすい文字の大きさ、フォント
  3. コントラスト・余白率・図版率を最適化
  4. わかりやすさを総合的にチェック
- となります。

また、デザインに関するコンセプトは3つあり、

1. 読者の興味をかきたてるレイアウトデザイン
  2. (会の活動を伝えるよう) 快活とした雰囲気表現
  3. 視覚的なわかりやすさを促すパターンを工夫
- などに配慮して実施しています。

## 2. IAUD会報での取組み



# 2-3 IAUD会報UDガイドライン

### ■IAUD会報の配慮ポイント(大項目)

1 読者理解と会報機能

2 使いやすい仕様・材料

3 わかりやすい表現・表記

4 伝わりやすい誌面構成

5 読みやすい文字・組版

6 色調やコントラスト

7 効果的な図版利用

8 多媒体活用と情報保障

7

2の3 IAUD会報UDガイドライン の内容を説明します。

ここに示した8項目が大項目で、それぞれに3項目ずつ、計24項目のチェックポイントで構成されています。

この評価項目と創刊号から3号までの自己評価の内容を、1枚にまとめた資料を展示ブースで配布していますので、お持ち帰りください。

大項目の8項目は

1. 読者理解と会報機能
  2. 使いやすい仕様・材料
  3. わかりやすい表現・表記
  4. 伝わりやすい誌面構成
  5. 読みやすい文字・組版
  6. 色調やコントラスト
  7. 効果的な図版利用
  8. 多媒体活用と情報保障
- です。

## 2. IAUD会報での取組み



# 2-3 IAUD会報UDガイドライン

### ■IAUD会報の配慮ポイント(大項目)

1 読者理解と会報機能

2 使いやすい仕様・材料

3 わかりやすい表現・表記

4 伝わりやすい誌面構成

5 読みやすい文字・組版

6 色調やコントラスト

7 効果的な図版利用

8 多媒体活用と情報保障

7

大項目 8 項目の中から、項目4. と項目5. について、具体的に示して説明します。

ここで重要な視点として、

ただ文字を大きくするとか、どれか一つ、個々の項目の配慮をするということではなく、

このようなガイドラインによって全体を評価する、全体に配慮して制作することによってユニヴァーサルデザインにつながるということがあります。

## 4 伝わりやすい誌面構成

読み手の視線の流れ考慮  
ページ全体のバランス

### 4-A ページ全体の余白や遊びは適切か？

・文字版面率、余白を指定・文字数算出 など

### 4-B テンポよく読め、検索性も考慮しているか？

・ツメ、柱の形状・目次工夫・流し読み対応 など

### 4-C 段組や配置の仕方など工夫しているか？

・2段組中心・文字列・和英の配置 など

項目4. 伝わりやすい誌面構成の説明です。

この項目は、読み手の視線の流れや、  
ページ全体のバランスなどに 考慮することで実現します。

項目4. のチェックポイントは、3つあります。

4のA ページ全体の余白や遊びは適切か？

4のB テンポよく読め、検索性も考慮しているか？

4のC 段組や配置の仕方など工夫しているか？ です。

では、4のAについて、具体的に説明します。

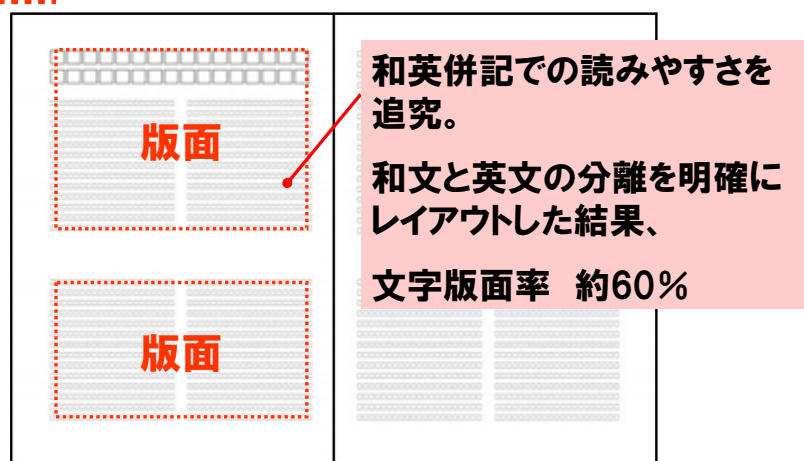
#### 4-A ページ全体の余白や遊びは適切か？

##### ●文字版面率: 誌面全体に対する文字印刷面積の割合

文字版面率70%以下(小川印刷UDガイドライン)

70%を超えると極端に誌面が見づらくなる

→70%以下に設定してスタート



9

4のA ページ全体の余白や遊びは適切か？という項目について、説明します。

文字版面率という指標があります。

これは、誌面全体に対する文字印刷面積の割合を言います。

小川印刷のUDガイドラインで、70%以下という指標が示されており、これは実践の中から「70%を超えると極端に誌面が見づらくなってくる」という経験に基づいて設定された数値です。

私たちも、70%以下に設定して設計をスタートしました。

実際には、和英併記での読みやすさを追求していく中で、上半分の和文と下半分の英文のエリアの区分を明確にレイアウトした結果、現状では、約60%になっています。

## ●文字版面率の比較

従来の広報誌だったら……



文字版面率 70~80%

和英の間隔を十分にとり、読みやすさを向上した結果、版面率は約60%



文字版面率 約60%

10

文字版面率を少し見ていただこうと思います。

左の画像は、文字版面率が80%と70%です。従来の広報誌だったら、こんな感じかなと思います。

今回、IAUD会報では、読みやすさを重点において設計し、評価をしてきた結果、右の画像のように、文字版面率が約60%になりました。

ただし、文字版面率は低ければよいというものではなく、例えばカタログや求人誌のようなものは、あえて版面率を高くし、購買意欲や情報密度を高めることがある。ということを申し添えておきます。

**5 読みやすい文字・組版**

総合的な可読性を高める  
情報がわかりやすく伝わる

**5-A 文字の大きさや書体は適切か？**

・文字サイズ、フォント指定(和英)

**5-B 行間、文字間は適切か？**

・行間、文字間数値指定(和英)

**5-C タイトル、本文、強調への工夫はあるか？**

・タイトルの強調・文字ウエイト・白フチ、影フチ

項目5. 読みやすい文字・組版の説明です。

この項目は、総合的な可読性を高めることや  
情報がわかりやすく伝わることに 配慮して実現します。

チェックポイントは、3つあります。

5のA 文字の大きさや書体は適切か？

5のB 行間、文字間は適切か？

5のC タイトル、本文、強調への工夫はあるか？ です。

では、5のA 文字の書体について、具体的に説明します。

## 5-A 文字の大きさや書体は適切か？

本文フォントはゴシック系を推奨（小川印刷UDガイドライン）

●IAUD会報和文フォント:

本文:小塚ゴシックR-10.5 または 11pt

タイトル:新ゴシックB-16pt以上 キャプション:小塚ゴシックB-8pt

小塚ゴシック 読みやすく美しい文字 1234567890 鳥鳥

プロポーションが大きく、漢字やかなを美しく見せるフォント

新ゴシック 読みやすく美しい文字 1234567890 鳥鳥

中ゴシック 読みやすく美しい文字 1234567890 鳥鳥

12

5のA 文字の大きさや書体は適切か？ という項目についてです。

小川印刷UDガイドラインには、本文フォントはゴシック系を推奨とだけありました。線の太さが一定で、かすれが少ないためです。

私たちは和文と欧文それぞれの書体・フォントを検討しました。

和文のフォントは、本文とキャプションは小塚ゴシック、タイトルには新ゴシックを採用しています。小塚ゴシックは、アドビが開発した、比較的新しい書体です。

ここに代表的な角ゴシックの書体として、新ゴシックと中ゴシックを示しています。一番下の中ゴシックは、漢字やカナがもともと持っている形やバランスをそのままに、太さを均一にした書体で、最も一般的に使われています。近年、開発された新ゴシックやロダンなどは、字を大きく見せる方向の書体です。もともと見出し用に開発されたこともあり、文字幅がほぼ一定です。

小塚ゴシックは、いわばこの中間的な書体です。空きや丸が大きくオープンでありながら、組んだときにも読みやすいよう、漢字・カナの形（ハネ、トメ、ハライ）を見直して作られたといわれており、角ゴシックでありながら柔らかさも加わり、文字の区別・視認性が高いと思います。

今回は、組版のサンプルを検討し、会報の性格を考慮した結果、小塚ゴシックを本文フォントに採用しました。

フォントにおいても、これが絶対的に優れているということではありません。その本の特性、読み手や内容によって選ぶということだと思えます。

●IAUD会報欧文フォント:

本文: Myriad R-10.5pt

タイトル: Myriad R-12pt 以上 キャプション: Myriad R-8pt以上

**Myriad** Universal Design Font 1234567890  
 abcdefghijklmnopqrstuvwxyz  
 ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ

識別性がよい、シンプルで機能的なフォント

**Frutiger** Universal Design Font 1234567890  
 abcdefghijklmnopqrstuvwxyz  
 ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ

**Helvetica** Universal Design Font 1234567890  
 abcdefghijklmnopqrstuvwxyz  
 ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ

次に、欧文フォントの検討について説明します。

本文・タイトル・キャプションともMyriad（ミリアド）を採用しています。こちらと比較的新しい書体ですが、アドビ、アップルが標準で採用しています。

最近では、私のような電機製品メーカーでもUDフォントという考え方がでており、この一番下にあるHelvetica（ヘルベチカ）という伝統のある一般的な書体が、実は識別性という意味ではどうか？という疑問があります。

例えばe（イー）やs（エス）の空気が小さいとか、数字では8と9が判別しにくいというような観点から、表示文字を順次、見直してきています。そのとき、必ず出てくる、Frutiger（フルティガー）、Futura（フーツラ）、Gil Sans（ギルサンズ）といった書体の特性を手がかりに探していきました。

そんな中で、このMyriad（ミリアド）は、組版での読みやすさという点で、優れているという意見が多かったので、今回採用しました。

Frutiger（フルティガー）とこの2段目3段目で見ていただきたいのですが、これらは同じ条件で組んでいます、全体の長さがMyriad（ミリアド）のほうが短くなっています。

## Myriad

The time when technological advances push UD further forward has come.

**Takahashi:** First of all, President Yamamoto, could you tell us how you became interested in Universal Design, and how you got involved with the IAUD. Were there specific events that resulted in these things happening?

**Yamamoto:** I am a little embarrassed to tell you this, but to be honest it is relatively recently that I began to take an interest in UD, since our company began manufacturing the "Raku-Raku Phone" in 2001. Just around then, there was a group of people who had attended the International Conferences on Universal

## Frutiger

The time when technological advances push UD further forward has come.

**Takahashi:** First of all, President Yamamoto, could you tell us how you became interested in Universal Design, and how you got involved with the IAUD. Were there specific events that resulted in these things happening?

**Yamamoto:** I am a little embarrassed to tell you this, but to be honest it is relatively recently that I began to take an interest in UD, since our company began manufacturing the "Raku-Raku Phone" in 2001. Just around then, there was a group of people who had at-

文章を組んだときの  
美しさ・読みやすさ  
の点で、優れている

こちらの画面は、ミリアドとフルティガーの組版の比較です。

画面ではわかりづらいかもかもしれませんが、左のMyriad（ミリアド）の方が、一つ一つの単語の組みがきれいで読みやすいという意見が多く出されました。

Myriad（ミリアド）は、書体としてオープンであり文字一つ一つの判別性が高い、さらに組んだときの美しさ、読みやすさの点で優れていると考え、今回のIAUD会報に採用しました。

繰り返しになりますが、この書体が絶対的に優れているということではありません。今回は、IAUD会報制作のために探した中で、いくつかの基準をもって評価し、これらの書体を採用したということを改めて申し上げます。

### 3. まとめ・今後の課題

#### ■まとめ

- ・ IAUDの会報として、ブランドアピールできている
- ・ 和英併記でのUDな印刷物の事例を示せた
- ・ UDガイドラインの有効性を確認できた

#### ■課題

- ・ 現在の「IAUD会報UDガイドライン」の検証・改良
- ・ 「IAUD会報UDガイドライン」の公表、普及・啓発
- ・ 会報以外への応用の可能性検討

15

最後に、まとめと今後の課題です。

まとめとして3点あげます。

1. 発足して間もないIAUDの会報としてブランドアピールができている。
2. 和英併記でのUDな印刷物の事例を示すことができた。
3. UDガイドラインをもって制作を進めることの有効性を確認できた。

課題として3点あげます。

1. 現在の「IAUD会報UDガイドライン」の検証・改良を進めていきたい。
2. これを今回、さらに秋の国際会議などで事例報告など、公表することで、印刷物でのUDの普及・啓発に寄与していきたい。
3. 会報以外への 例えば、配布資料やPPTなど他への応用の可能性を検討していきたい。

と考えております。

以上で発表を終わります。ご静聴ありがとうございました。